

屋内遊び場整備事業

補足説明資料

広島県三原市 こども部子育て支援課

1. 三原市の地域特性

立地・交通	瀬戸内海沿岸、広島県の中央部。山陽新幹線・JR 山陽本線の結節点で、JR 三原駅～広島駅 新幹線約 30 分。広島都市圏の通勤・通学圏。
広島空港	市内に立地（年間旅客 約 255 万人）。広域集客に優位。
人口	総人口 約 86,000 人（減少傾向）／15 歳未満 約 8,500 人（9.9%）／9 歳以下 約 2,500 人（2.9%）＝主な対象層。
産業・経済	製造業を基盤に農業・観光が柱。観光ビジョン（R6）で観光客 400 万人超を目標。
商業環境	大型 SC への集客集中で中心市街地が空洞化。空き店舗率 H27 年 21.8%→R2 年 26.9%。

2. 中心市街地活性化基本計画との関係

本事業の主目的は、天候に左右されない子どもの遊び環境の確保と子育て支援にある。あわせて、第 2 期計画（R5.3 内閣総理大臣認定／計画区域：JR 三原駅周辺 約 90ha／R5.4～R10.3）の方針に対しても、次のような副次的効果が期待される。

基本方針	期待される副次的効果
基本方針 1 魅力ある通り・活力	子育て世代の来街により周辺商業へ波及しうる。空き床活用が賑わい創出につながる可能性。
基本方針 2 繋がり・回遊	遊び場を起点とした周辺店舗・円一広場（R11 整備）への回遊が生まれる可能性。
基本方針 3 人にやさしいまち	子育て環境の充実が定住促進に資する可能性。

3. 円一エリア整備との連携

円一エリア（R6.3 策定）では、県内最大級の大型複合遊具を含む 5,000 m²以上の屋外広場を令和 11 年度供用予定（概算事業費 11 億 6,400 万円）。屋内遊び場とは次のとおり相互補完の見込み。

	屋内遊び場（本事業）	（仮称）円一広場（R11～）
天候	全天候型（屋内）	屋外（悪天候時は制限）
対象	未就学児～小学2年生	幼児～多世代
時期	令和9年秋～冬	令和11年度～
連携	雨天・猛暑時に屋外広場を補完	晴天時は広場→屋内施設へ誘導など

4. 屋内遊び場の市場環境

三原市内に公設の屋内遊び場は存在しない。市民は東広島・福山等へ赴いている。

市内の主な子ども向け施設

施設	課題
児童館「ラフラフ」	JR 三原駅前に位置する児童館。運動系遊具はボルダリングのみ。
やまみ三原運動公園	屋外複合遊具。天候に左右される。

5. 事業スキームの特徴

既存床の賃借方式	少子化でニーズ持続が不確実なため、専用建設ではなく商業施設の床を賃借。設置・撤去が相対的に容易。施工期間4～6ヶ月。
利用料 無料	子育て世代の経済的負担を軽減し、利用しやすい環境を確保することが主眼。あわせて来街・滞留を通じた周辺消費への波及も期待される。
運営手法	プロポーザルによる設計施工及び運営委託を検討

6. サウンディングの主要論点

論点	求める意見・提案
①魅力的な空間づくり	安全で楽しい設計要件、保護者が快適に過ごせる工夫、既存床活用の施工留意点、4～6ヶ月で実現可能な水準、類似施設の事例、 相談機能やスポーツ機能など別途機能の追加効果 。
②運営スキーム	必要人員・配置基準、安全管理・危機管理体制、予約管理方法、無料運営時の採算性、 遊具更新の考え方 、参画条件。
③概算費用	500㎡規模の設計・施工費、年間運営費（人件費・光熱費等）、費用を左右する仕様・安全基準。

7. 事業スケジュール（案）

内容	R8	R9	R10～
サウンディング・仕様書作成	●		
プロポーザル・事業者選定		●4 月	
整備（設計・施工）		●（6 月～10 月）	
運営		●（11 月開始）	継続